



世界経済のトレンド丸解り！今週の注目レポート



このコーナーでは、フィナンシャル・インテリジェンス部に配属された新人のルミが「世界経済の今・そしてこれから」を把握するために是非読んでおきたい、今週の重要レポート・ニュース記事を紹介します。（原則月曜日更新）

「おはようございます、部長…」

「おはよう、榎原君。どうした？元気がないじゃないか！」

「そうなんです！FXのことを考えてたら、元気がなくなっちゃいました。」

「どういうことだ？私が相談に乗ってあげよう。」

「実は…7月1日のドル円のレートは101.5円で、先週末は107.3円だったんですよ。」

「ほう、そうか。で、なんでキミが元気を失うんだ？」

「つまり、約2か月でドルが円に対して5.8円高くなったってことなんです。もし私が、レバレッジ25倍で100万円分のドルを7月1日に買ってれば、今は120万円以上儲けたってことじゃないですか！！！！こんなチャンスを見逃すなんて、証券会社で働いてる私として恥ずかしいです…」

「ばっかもーん！金融先物取引業協会に加入している証券会社の社員はFXをやってはいけないっていう厳しいルールがあるんだぞ！むしろチャンスを見逃して良かったな。いまごろクビになっていたぞ！！」

「そ、そうなんですか？ルミだめだめですね…」

「(いかん、また気を落とさせてしまった…)ところで今週も課題はやってきたかね？」

「はい。これです。(ポイっ)」



今週の注目レポート・重要ニュース

■経済指標や重要イベントなど

【1.米国】

先週の米国市場は下落しました。FOMC（連邦公開市場委員会）の開催を控えていたことや米国がイスラム国への空爆拡大を決定したこと、スコットランドが英国から独立する可能性が高まったことなどで不透明感が強まり、相場の重石となりました。ダウ平均は1万7000ドルを、S&P500は2,000ポイントの節目をともに割り込みました。



1-1. アップルの新製品発表会

9日に開催されたアップル（AAPL）の新製品発表会では iPhone6 および iPhone6 Plus、また Apple Watch の販売が発表されました。アップルの株価は発表当日こそ小幅に下落したものの、翌日以降は上昇し、100ドルの大台を回復しました。これまでのところ iPhone6 と iPhone6 Plus の販売好調が伝えられています。

1-2. 小売売上高

8月の米小売売上高は前月比0.6%増となり市場予想と一致し、7月は横ばいから0.3%増へ上方修正されました。この結果、米小売売上高は7カ月連続で増加となりました。

1-3. ミシガン大学消費者態度指数（速報値）

9月のミシガン大学消費者態度指数の速報値は84.6となり、前月分から2.1ポイント上昇し市場予想を上回って昨年7月以来14カ月ぶりの高水準となりました。

1-4. FOMC（連邦公開市場委員会）

16日と17日にはFOMCが開催されます。量的金融緩和第3弾（QE3）による長期国債やモーゲージ債の買い入れの終了を決定することはほぼ確定的なことに加えて、金融政策に対する現在のメッセージである「量的緩和終了後も相当な期間ゼロ金利を維持する」という文言が修正または削除される可能性が指摘されています。

1-5. NAHB 住宅市場指数

17日にNAHB住宅市場指数が発表されます。住宅市場の先行きを示す先行性の高い指標として注目されます。

1-6. 住宅着工件数

18日には住宅着工件数が発表されます。昨冬の寒波の影響で落ち込みが大きく、回復も鈍かった米国の住宅市場ですが、ここ数ヶ月で底入れの兆しを見せており、着工件数が増加基調を保てるか注目されます。

詳細は「米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

【2.欧州】

スコットランドが英国から独立する可能性が高まったことやスペインのカタルーニャ自治州で同国からの独立・分離を求めるデモが行われたことなどや米国市場が調整色を強めたことなどを嫌気して、ドイツのDAX指数など欧州の主要な株式指数は下落しました。

【3.日本】

先週の日本市場は上昇しました。米国の長期金利の上昇や、黒田日銀総裁の今後の追加金融緩和に含



みを持たせた発言を行ったことなどを受けドル円は107円台まで円安が進行、また出資するアリババ（BABA）株の含み益が5兆円規模となるソフトバンク（9984）の上昇がマーケット全体を牽引する格好で、日経平均は週間で300円近く上昇しました。TOPIXやJPX日経400は連日で年初来高値を更新しました。

3-1. メジャーSQ

12日に発表された株価指数先物とオプション9月物の特別清算指数（SQ）は1万5915円となりました。

【4.中国】

先週の上海総合指数は週間ベースで5ポイント高と小幅に上昇しました。一方、先週のハンセン指数はすべての営業日で下落し、週間ベースで644ポイント下落し、心理的な節目となる2万5000ポイントを割り込みました。欧米市場の株価が調整したことから利益確定売りが進んだようです。

詳細は「中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

詳細レポートは以下をご参照ください。

- [日本][チーフ・ストラテジスト広木隆の「ストラテジーレポート」](#)
- [日本][シニア・マーケットアナリスト金山敏之の「投資のヒント」](#)
- [日本][フィスコの「週刊マーケット展望」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本][J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社や TIW 社の「アナリストレポート」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [米国][米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [中国][中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [その他][J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社の、「マクロ経済レポート ウィクリー・データ・ウォッチ」「グローバル・データ・ウォッチ」\(ログイン後限定レポート\)](#)

グローバル・マクロ・ビュー（世界経済の基本観）

1. 日本（前回からの変更なし）

内閣改造後の経済対策および、消費税再引き上げ決定に向けた秋～冬の景気に要注目。

2. 米国（前回からの変更なし）

景気回復鮮明に。QEは秋に終了、来年の利上げ時期が焦点に。



3.欧州（前回からの変更なし）

ECB は追加金融緩和を実施。ソブリンQEに踏み切る観測も台頭。次回(10/2)の理事会に注目。

4.新興国（赤字は前回からの変更点）

中国において、8月の鉱工業生産が5年8カ月ぶりの低水準となったため景気後退懸念も。今後の動向に要注目。

「いやー、今週はとてもよくできていた！！私はキミの上司であることを誇りに思うよ。」

「部長！！部長ってとっても優しいですね！！」

「(ほっ、これで機嫌をなおしてくれたか。) まあな、俺はいつでもキミを見ているぞ！」

「部長、それセクハラですよ。」

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
一般社団法人 日本投資顧問業協会